

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 第3次産業活動指数(2006年11月)

発表日2007年1月18日(木)

～10月の反動による前月比マイナス～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 結城 良彦  
TEL : 03-5221-4573

(単位:%)

		第3次産業活動指数												
		前期比		前年比		電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店・宿泊業	医療、福祉	サービス業
		前期比	前年比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比
05	1-3月	1.2	2.1		3.7	▲ 1.6	0.4	1.5	1.6	▲ 0.2	2.1	0.7	2.1	
	4-6月	0.2	1.9	▲ 0.9	0.9	1.2	▲ 0.2	▲ 0.5	0.9	▲ 0.1	▲ 0.1	0.3		
	7-9月	0.4	2.2	0.0	▲ 0.7	▲ 0.1	▲ 0.2	▲ 0.2	3.0	0.7	0.0	0.6		
	10-12月	1.1	2.6	3.6	2.1	▲ 0.5	1.1	4.4	1.1	0.9	0.6	▲ 0.2		
06	1-3月	0.3	2.0	▲ 0.7	▲ 1.3	0.6	0.6	▲ 1.1	▲ 0.7	1.2	0.9	0.6		
	4-6月	0.6	2.6	▲ 0.8	1.2	0.5	0.8	▲ 1.0	0.6	0.6	▲ 0.2	1.1		
	7-9月	▲ 0.7	0.5	▲ 0.6	▲ 2.3	0.6	▲ 0.9	▲ 2.9	0.5	0.0	0.1	0.4		
05	11月	0.3	2.7	▲ 0.4	▲ 3.1	0.3	0.9	1.0	▲ 0.2	▲ 0.5	0.7	0.4		
	12月	0.0	2.2	5.3	▲ 0.6	0.1	0.4	1.2	0.6	1.6	1.2	▲ 1.2		
06	1月	1.5	2.3	▲ 2.6	2.9	0.2	3.1	0.0	▲ 0.3	▲ 1.0	0.7	1.9		
	2月	▲ 1.4	2.5	▲ 1.5	▲ 2.8	▲ 0.8	▲ 1.9	▲ 1.5	▲ 1.3	1.6	▲ 2.0	0.7		
	3月	▲ 1.1	1.2	▲ 0.8	▲ 2.3	2.3	▲ 1.9	▲ 2.9	0.0	0.6	1.8	▲ 2.9		
	4月	1.6	2.1	2.5	3.2	▲ 1.4	2.9	2.2	1.0	▲ 0.1	▲ 1.9	2.3		
	5月	0.7	3.6	▲ 2.5	▲ 0.3	1.0	0.8	▲ 0.5	0.1	0.4	2.6	1.6		
	6月	▲ 0.8	2.0	▲ 1.3	2.6	0.0	▲ 0.3	▲ 0.9	0.0	▲ 1.3	▲ 1.6	▲ 1.5		
	7月	▲ 0.3	2.0	▲ 1.6	▲ 2.7	▲ 0.5	▲ 0.4	▲ 1.1	0.1	▲ 0.3	0.8	1.0		
	8月	0.4	1.2	6.0	▲ 0.5	1.3	0.6	▲ 1.4	0.2	1.0	▲ 1.1	▲ 0.3		
	9月	▲ 1.2	1.0	▲ 3.6	▲ 2.7	▲ 0.3	▲ 3.1	▲ 0.4	0.7	1.0	0.8	0.0		
	10月	2.1	1.9	4.1	8.7	▲ 0.7	3.1	3.9	▲ 0.5	▲ 0.9	0.3	▲ 0.3		
	11月	▲ 0.3	1.1	▲ 0.4	▲ 2.6	0.7	0.4	▲ 2.0	0.0	▲ 2.1	0.2	0.3		

(出所) 経済産業省「第3次産業活動指数」

## ○ 第3次産業活動指数：前月比▲0.3%と前月の反動減

11月の第3次産業活動指数は前月比▲0.3%と、ややコンセンサスを下回ったものの(コンセンサス: ▲0.1%、レンジ▲1.5%～+1.0%) 大方の予想通り2ヶ月ぶりに前月比マイナスとなった。今回、主要11業種のうちマイナスとなったのは情報通信業、金融・保険業、飲食店・宿泊業、電気・ガス・熱供給・水道業の4業種である。一方、プラスになったのは卸売・小売業、サービス業、運輸業、学習支援業、医療・福祉、複合サービス業の6業種で、不動産業は横ばいとなった。

10月に大きく値を伸ばした情報通信業や金融・保険業は今回その反動もありマイナスに転じ、11月の第3次産業活動指数を押し下げることとなった(情報通信業: 前月比寄与度▲0.26%ポイント、金融・保険業: 同▲0.19%ポイント)。この他、マイナス寄与度が大きかったのは対事業所サービス業(同▲0.22%ポイント)や飲食店・宿泊業(同▲0.12%ポイント)といった業種である。消費関連業種についてみれば、家計調査に持ち直しが見られたため、対個人サービス業(同+0.16%ポイント)に改善が見られたほか、小売業(同+0.12%ポイント)も小幅改善している。一方で、飲食・宿泊などはマイナスとなるなど、斑模様である。10-12月期のGDP個人消費は増加が見込まれているが、第3次産業活動指数からは消費の明確な改善はまだ確認できないようだ。

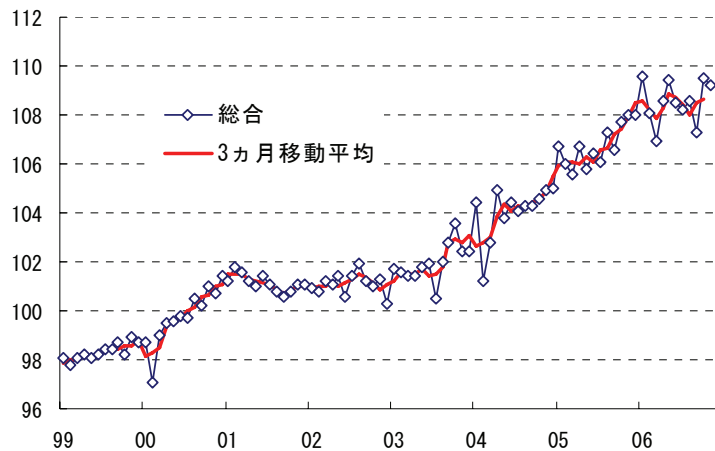
## ○ 回復基調は変わらず

12月の第3次産業活動指数が10-11月と同じ水準で推移したと仮定すると、10-12月期は前期比で+1.4%となる。7-9月期には天候不順などの要因があり8四半期ぶりにマイナスに転じたが、10-12月は再びプラス成長になる公算が大きい。今後も第3次産業活動指数の回復基調に変わりはないといえる。

## ○ 全産業活動指数も回復基調を維持

今回の第3次産業活動指数の結果から、11月の全産業活動指数を予測すると、前月比▲0.2%（前年同月比+1.6%）となる。11月は鉱工業生産指数が前月比+0.8%となったが、ウエイトの大きい第3次産業活動指数がマイナスとなったため、2ヶ月ぶりにマイナス成長になる見込みだ。もっとも、10月の全産業が堅調に推移したことに加え、12月にも大きな落ち込みはないと考えられることから、四半期ベースで見れば10-12月の全産業活動指数は底堅く推移するとみられ、回復トレンドに変わりはないといえる。先行きについても鉱工業生産指数において懸念されていたITセクターの在庫調整が軽微なものにとどまり、大きな鈍化はないとみられているほか、第3次産業活動指数も底堅い推移が見込まれる。全産業活動指数は今後も回復基調を維持していくこととなるだろう。

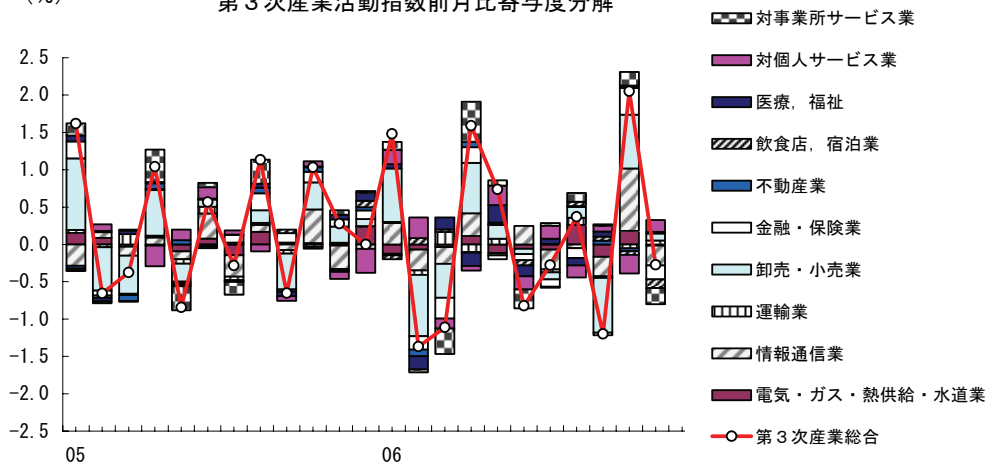
第3次産業活動指数（季調値）



(出所) 経済産業省「第3次産業活動指数」

(%)

第3次産業活動指数前月比寄与度分解



(出所) 経済産業省